

IR REPORT

KYOKUTO

証券コード：7226

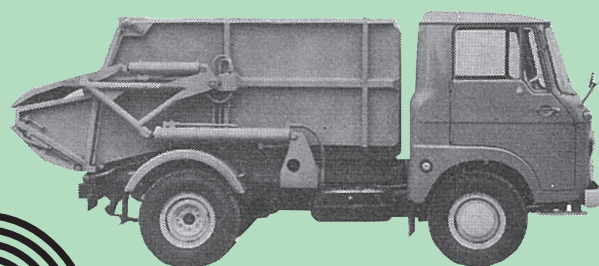
第91期 中間決算のご報告

2025年4月1日～2025年9月30日

1967



1962



2011



2017



70
YEARS
ANNIVERSARY

最新の業績、製品情報などが
分かるWebサイトはこちら



ありがとう
創業70周年

Create the Future with you

<https://www.kyokuto.com/>



Shared
Research



<https://sharedresearch.jp/ja/companies/7226>

IR REPORT Contents

- 01 TOP MESSAGE
- 02 セグメント別概況
- 03 70周年特集
- 04 トピックス
- 06 連結財務データ

株主の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

2025年4月1日から2025年9月30日までの当社第91期中間期の営業の概況についてご報告申し上げます。

2025年12月 取締役社長

布原達也



◆ 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善等を背景として景気は緩やかな回復基調で推移した一方、物価上昇の継続により個人消費が下押しされるリスクが高まっているほか、米国の通商政策や金融資本市場の変動等の懸念により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループは2031年3月期(2030年度)を見据えた長期経営ビジョン～Kyokuto Kaihatsu 2030～の実現に向けた第2ステップである中期経営計画(3カ年計画)2025-27 [Creating The Future As One(II)] (2025年4月1日～2028年3月31日)の初年度として、高付加価値製品・サービスを通じた社会的課題解決と価値の創造や生産性向上による利益体質の強化、企業価値向上を実現する資本政策の推進など諸施策を実行しました。

この結果、当中間連結会計期間の経営成績は前年同期と比較して(以下、前年同期比)売上高は前年同期比10,172百万円(15.9%)増加し74,180百万円となりました。営業利益は前年同期比960百万円(35.1%)増加し3,701百万円、経常利益は前年同期比1,015百万円(38.0%)増加し3,688百万円、親会社株主に帰属する中間純損益は前年同期比4,554百万円減少し1,485百万円の損失となりました。

◆ 公正取引委員会からの排除措置命令及び課徴金納付命令について

当社と当社子会社である日本トレクス株式会社は、製造する「架装物」の販売をめぐる、値上げに関する情報交換をしていたとして、公正取引委員会から独占禁止法に基づく排除措置命令及び課徴金納付命令を受けました。このような事態に至りましたことは誠に遺憾であり、株主の皆様にも多大なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、改めて深くお詫び申し上げます。

当社グループでは今回の独占禁止法(以下、同法)違反の事実を厳粛に受け止め、再発防止及びコンプライアンス体制の見直しと法令違反の撲滅に向け、役員及び従業員が一丸となり以下の課題に取り組んでまいります。

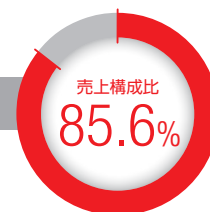
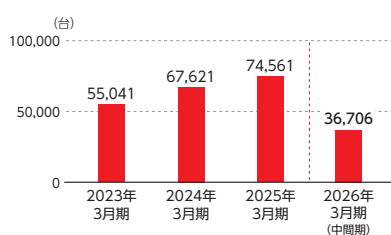
- (1) 取締役会において今後同法違反となる行為を一切行わないことを決議
- (2) 代表取締役社長を委員長とするリスク管理委員会の設置
- (3) 再発防止のため同法遵守体制の整備に向けたロードマップを作成
- (4) 代表取締役社長から当社グループの全ての役員及び従業員に、コンプライアンスを徹底すべきことをトップメッセージとして発信
- (5) 同法遵守についての行動指針、社内規定(懲戒規定、リニエンシー規定、コンタクトルール等)の整備、役員及び従業員への周知
- (6) コンプライアンスマニュアル等の整備
- (7) 社外の弁護士と法務部門からなる調査チームにて、全ての営業関係者等を対象に、同法に違反するおそれのある行為の有無をアンケート調査
- (8) 全ての役員及び従業員を対象に、同法の遵守に係る教育・研修を定期的実施
- (9) 公益通報者保護法に基づく内部通報制度の周知と制度利用の推奨
- (10) 定期的な内部監査の実施、内部監査体制の強化
- (11) 上記再発防止策の定期的な評価・アップデート

また、今回の処分による課徴金額である5,925百万円(当社:2,601百万円、日本トレクス株式会社:3,323百万円)につきましては、独占禁止法関連損失として同額を特別損失に計上しています。

特装車事業

オーストラリアSTG社の
フロントローダー式ごみ収集車

●国内普通トラック登録台数の推移



国内需要は堅調であり、受注は底堅く推移したほか、製品価格改定や生産性向上に向けた取り組みの効果が現れたことに加え、トラックシャシ供給の改善などにより、売上高・利益ともに増加しました。

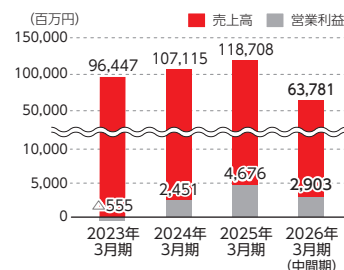
製品では、2025年10月に当社独自の仕様となる垂直昇降式テールゲートリフト「パワーゲート® V800tilt」及びIoTを利用した車両管理支援システム「K-DaSS®」が「2025年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

その他、部品供給体制のさらなる効率化とサービス品質の向上を目的として、兵庫県三木市の西部パーツセンターを移転拡張した新西部パーツセンターが2025年7月に竣工しました。今後、愛知県小牧市の中部パーツセンターを2026年1月に統合する予定です。

さらに、当社のブランド認知向上施策の一環として、「キッザニア甲子園」に、オフィシャルスポンサーとして「特装車設計会社」パピリオンを2025年7月にオープンしました。

海外事業では、2024年12月にグループ化したオーストラリアのSTG Global Holdings Pty Ltdの運営体制整備や、インドのSATRAC ENGINEERING PVT LTDにおけるチェンナイ市近郊の新工場建設、またインドネシアのPT. Kyokuto Indomobil Manufacturing Indonesiaにおける新工場建設など、中期経営計画の基本方針でもある海外事業の成長加速に向け取り組みました。

当セグメントの売上高は前年同期比8,676百万円(15.7%)増加し63,781百万円となりました。営業利益は前年同期比838百万円(40.6%)増加し2,903百万円となりました。



環境事業



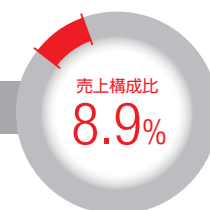
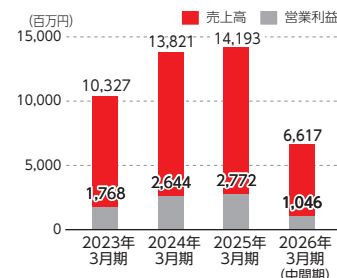
駒岡清掃工場 (北海道札幌市様)

プラント建設では新規物件の受注活動と併せ、受注済物件の建設工事を進め、2025年7月には北海道札幌市様より受注しておりました駒岡清掃工場が竣工しました。

また、メンテナンス・運転受託等のストックビジネスにも注力しました。

新たに取り組んでいるバイオマス事業においては、2025年5月に長野県北安曇郡松川村様と北アルプス森林組合様との間で、地域の未利用資源や森林資源を有効活用した持続可能な地域づくりを目的として、木質バイオマスボイラーによる熱エネルギー供給事業の協働実施に関する協定を締結しました。

当セグメントの売上高は前年同期比1,346百万円(25.5%)増加し6,617百万円となりました。営業利益は前年同期比331百万円(46.4%)増加し1,046百万円となりました。



パーキング事業



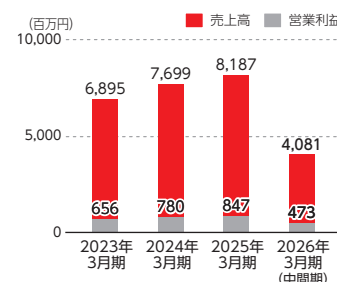
機械式立体駐車装置「レントウパズル®」

立体駐車装置は新規物件の積極的な受注活動と併せ、リニューアル及びメンテナンス等のストックビジネスにも注力し収益の確保を図りました。

コインパーキングは稼働率の向上と採算性重視の事業地展開を進め、売上・利益の確保を図りました。

また、新規事業である立体駐車装置・コインパーキング向けEV用充電設備設置・充電管理サービス「Charge-mo® (チャージモ)」の展開を進めました。

当セグメントの売上高は前年同期比116百万円(2.9%)増加し4,081百万円となりました。営業利益は前年同期比49百万円(11.6%)増加し473百万円となりました。



70周年特集

後編 1996-2025

当社は、今年で創立70周年を迎えました。

今回は後編として、1996年から現在までの当社の歴史を振り返ります。

4

グループ経営の時代 (1996～2018)



2013年開発の移動式破砕機

2002年の中国進出をきっかけとして、インド・インドネシア等の海外展開が本格化した。

国内展開では、2007年に日本トレクス(株)をグループとして迎え、拡大が見込まれるトレーラ製品群を強化した。

2011年に発生した東日本大震災では、「震災がれき輸送システム」やグループの総力を結集した「移動式破砕機」を開発し、復興支援に尽力した。

2018年には北陸重機工業(株)をグループ化し、はたらく鉄道車両の分野にも進出。極東開発グループとして大きく飛躍を遂げた時代であった。



震災がれき輸送システムを活用した女川町での積込作業(2012年)



1996

1999年

パワーゲート®CG型を発売。床下に格納する機構は、業界に革新をもたらした。

1999

2000

2000年

P.ZONE®を新規オープン。コインパーキング事業に参入。

2000

2002

2002年

中国に初の海外拠点を構え、海外進出を果たした。

2002

2007

2007年

日本トレクス(株)をグループ化。過去最高の売上高となる856億円を記録。

2007

2012

2012年

インドネシアにて合併企業を設立。

2012

2013

2013年

東日本大震災の復興支援として、当社特装車事業と環境事業、さらに日本トレクス(株)の技術を結集し、移動式破砕機を開発。

2013

2015

2015年

バイオガスプラント建設事業に進出。

2015

2016

2016年

(株)モリプラントをグループ化。バイオマス事業を強化した。

2016



2018

2018年

北陸重機工業(株)をグループ化。鉄道車両分野に進出。

2018



2019

5

持続可能性の時代 (2019～2025)



2023年に移転した本社外観

長期的な発展を企図して、本社を兵庫県西宮市から大阪市中央区に移転した。

技術開発では、ごみ収集車による巻き込まれ事故が大きな社会問題となっていたことから、AIによる安全支援システムKIESを独自開発した。また、カーボンニュートラルへの取り組みを積極化し、CASEと呼ばれる自動車業界の新技术分野の強化に努めた。70周年の節目にグループの力を結集し、持続的な成長のための礎を築いた。



ごみ収集車安全支援システム KIES(2020年)

2020

2020年

「KIES」を開発。ごみ収集車の安全性向上を実現。

2020

2020

2020年

SATRAC社をグループ化。後にインド市場が大きな収益の柱となる。

2020



2021

2021年

東京証券取引所プライム市場へ移行。

2021

2023

2023年

本社を兵庫県西宮市から大阪市中央区へ移転。

2023

2024

2024年

STG社をグループ化。オーストラリア市場に本格進出を果たした。

2024



株主の皆様の日頃のご支援に深く感謝申し上げます。

今後もさらなる成長と飛躍を目指してまいりますので、引き続きのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

「パワーゲート®V800tilt」と「K-DaSS®」が、「2025年度グッドデザイン賞」を受賞

当社が製造・販売を行う垂直昇降式テールゲートリフタ「パワーゲート®V800tilt」と特装車の稼働状況を記録・蓄積するIoT基盤を利用した車両管理支援システム「K-DaSS®^{※1}」が、「2025年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

「パワーゲート®V800tilt」は、アルミ製プラットホーム（荷物搭載部）を採用したバンボデー専用モデルで、「パワーゲート®GⅢ1000」に採用している「チルト機構（プラットホーム傾斜角度の調整機構）」を、垂直昇降式として国内で唯一^{※2}搭載しています。本機構によりプラットホームと集荷場デッキの間に高低差があっても効率よく積み降ろしできるほか、併せて搭載している自動水平機構によりプラットホームが水平状態で昇降することで、傾斜地や積雪地域でも荷物のぐらつきを防止し、より安全な作業を可能としているなど、V型（垂直昇降式）とGⅢ型（チルト機構搭載後部格納式）の強みを兼ね備えた当社独自仕様のテールゲートリフタです。

「K-DaSS®」は、IoT技術を活用し、特装車の稼働状況をリアルタイムに記録・蓄積・見える化する当社独自の車両管理支援システムで、人手不足や高齢化、労働時間管理の厳格化といった社会的課題に対し、現場作業の効率化と持続可能な運用を可能にする次世代の管理支援ツールとして評価されています。

当社グループでは、今回の受賞をはじめとして、今後もお客様の多様なニーズを反映した製品開発と継続的な改良により製品ラインナップを拡充してまいります。

※1: K-DaSS ケーダス Kyokuto Data Sharing Service

※2: 当社調べ



垂直昇降式テールゲートリフタ「パワーゲート®V800tilt」



GOOD
DESIGN



新西部パーツセンター完成

兵庫県三木市にて建設を進めておりました新西部パーツセンターが完成しました。

今回、部品供給体制のさらなる効率化とサービス品質の向上を目的として、西部パーツセンターを三木工場隣接地に移転拡張の上、中部パーツセンターを統合しました。

両センターの機能を集約することで約15,000品目（予定）の部品を保管することが可能となり、より迅速かつ安定した部品供給体制を確立いたします。

当社グループでは今後とも特装車事業の増強を進め、アフターサービスの品質向上と、ストックビジネスの強化に注力してまいります。



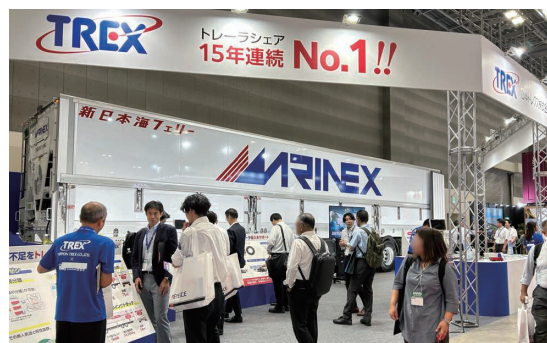
新西部パーツセンター

日本トレクス「国際物流総合展 2025 第4回 INNOVATION EXPO」出展

グループ会社である日本トレクスは、2025年9月10日（水）から9月12日（金）に東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展 2025 第4回 INNOVATION EXPO」に出展しました。

当展示会では、物流業界に携わる多様な業種の皆様に向けて、日本トレクスの取り組みや製品をご紹介します。幅広い価値をお届けする展示を実施しました。また、日本トレクスが考えるトレーラ活用の可能性と、ドライビングスクールをはじめとする継続的なサポート体制をご提案しました。

当展示会への出展により、お客様に当社グループの取り組みをご理解いただくとともに、今後もより一層の商品開発力強化に努めてまいります。



出展ブースの様子

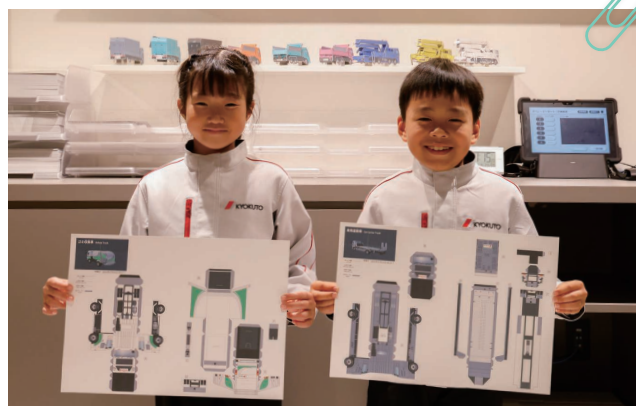


キッズニア甲子園に 特装車の設計ができる「特装車設計会社」パビリオンを出展

当社とKCJ GROUP 株式会社は、こどもの職業・社会体験施設「キッズニア甲子園」(兵庫県西宮市)において、当社がオフィシャルスポンサーとなる「特装車設計会社」パビリオンを2025年7月31日(木)にオープンしました。



「特装車設計会社」パビリオン



設計図(ペーパークラフト)

こども達は「特装車設計士」として、「ダンプトラック」「ゴミ収集車」「車両運搬車」などの特装車の用途や構造を学び、お客さまからのオーダーに合わせて、安全に走る特装車を設計します。

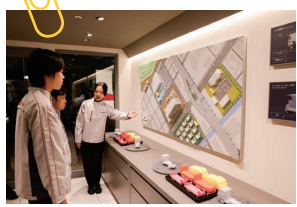


■ 体験のポイント

- ・模型を使って、特装車の用途・構造や活躍する場面について学ぶ
- ・設計アプリを使って、特装車を設計する
- ・設計図(ペーパークラフト)を持ち帰り、自分が設計した特装車を組み立てる



本パビリオンでの体験を通じて、こども達が、目的や用途に応じて街の中で活躍する特装車の設計方法が異なることを知るとともに、自分自身で考え、工夫しながらものづくりの楽しさや面白さに触れ、「つくること」の奥深さや可能性を感じる機会になることを願っています。

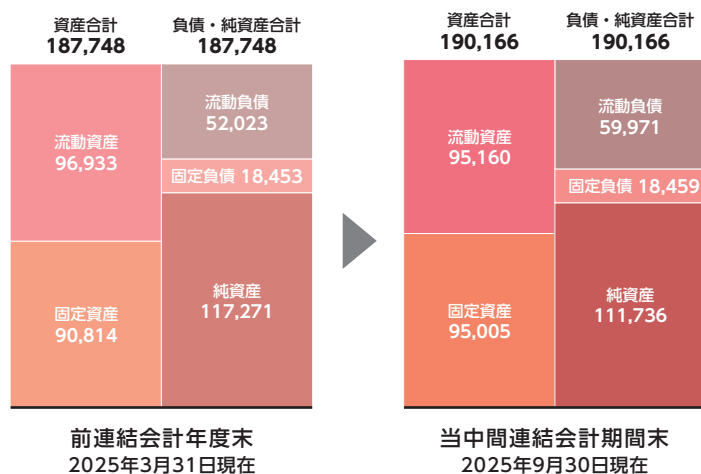


■ パビリオン概要

パビリオン名	： 特装車設計会社
職業名	： 特装車設計士
定員	： 6名/1回
所要時間	： 約30分
お給料	： 10キッズ
成果物	： 設計図(ペーパークラフト)
体験内容	： 特装車の用途や構造を理解し、お客さまからのオーダーに合わせて特装車を設計する



◆ 中間連結貸借対照表の概要 (百万円)



ポイント解説

当中間連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比較して(以下、前期末比)、総資産は前期末比2,418百万円(1.3%)増加して190,166百万円となりました。

流動資産につきましては、受取手形、売掛金及び契約資産の減少等により前期末比1,773百万円(1.8%)減少して95,160百万円となりました。

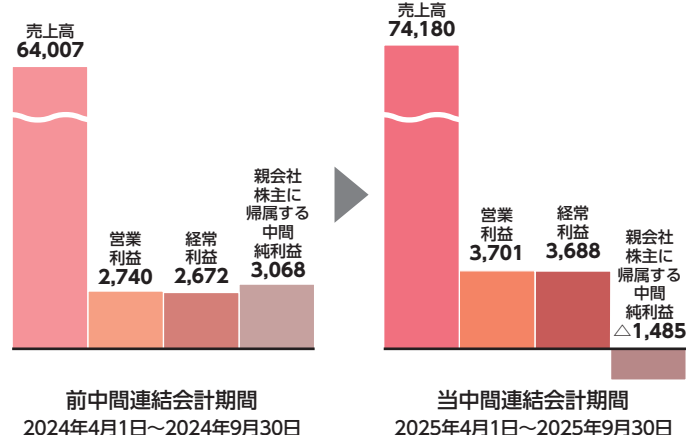
固定資産につきましては、土地の取得等により前期末比4,191百万円(4.6%)増加して95,005百万円となりました。

負債につきましては、流動負債は未払金の増加等により前期末比7,948百万円(15.3%)増加して59,971百万円、固定負債は長期借入金の増加等により前期末比5百万円(0.0%)増加して18,459百万円となりました。

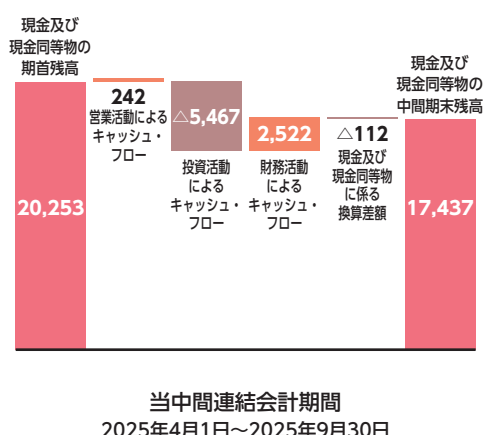
純資産につきましては、配当金の支払い等により前期末比5,535百万円(4.7%)減少して111,736百万円となりました。

なお、当中間連結会計期間末現在の自己資本比率は58.0%(前連結会計年度末61.8%)となりました。

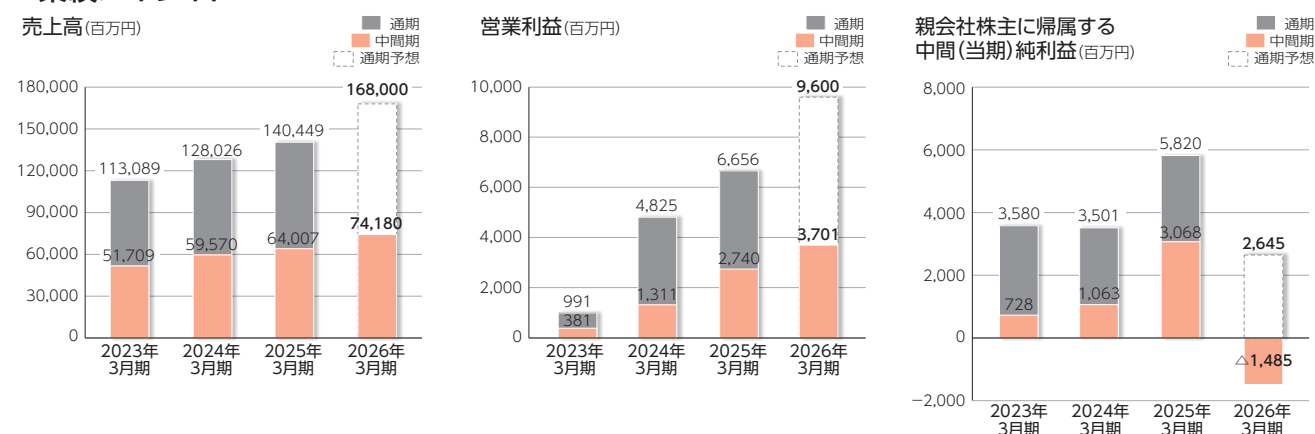
◆ 中間連結損益計算書の概要 (百万円)



◆ 中間連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)



◆ 業績ハイライト



[FTSE Blossom Japan Index]及び [FTSE Blossom Japan Sector Relative Index]の構成銘柄に選定

当社は、ESG(環境・社会・ガバナンス)の評価が高い日本企業により構成される投資インデックスである「FTSE Blossom Japan Index」及び「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されました。

なお、「FTSE Blossom Japan Index」については今回が初の選定となり、「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」については4年連続の選定となります。



FTSE Blossom Japan Index

◆ 企業データ (2025年9月30日現在)

【 会社概要 】

商 号	極東開発工業株式会社 KYOKUTO KAIHATSU KOGYO CO., LTD.
設 立	1955年6月1日
資 本 金	11,899,867,400円
従 業 員 数	連結3,556名 単独1,189名

【 役 員 】

代表取締役社長 社長執行役員	布 原 達 也
代表取締役専務 専務執行役員	則 光 健 男
取締役 常務執行役員	堀 本 昇
取締役 常務執行役員	木 津 輝 幸
取締役 執行役員	市 村 哲 也
社 外 取 締 役	寺 川 博 之
社 外 取 締 役	金 子 啓 子
社 外 取 締 役	友 廣 隆 宣
常 勤 監 査 役	櫻 井 晃
監 査 役	栗 山 裕 章
社 外 監 査 役	藤 原 邦 晃
社 外 監 査 役	浅 田 修 宏
常 務 執 行 役 員	高 崎 文 弘
執 行 役 員	細 澤 幸 広
執 行 役 員	高 濱 晋 一
執 行 役 員	吉 田 豊
執 行 役 員	牛 尾 昌 史
執 行 役 員	千 々 岩 伸 佐 久
執 行 役 員	野 村 達 也
執 行 役 員	岩 田 圭 介
執 行 役 員	山 本 浩
執 行 役 員	佐 竹 重 幸
執 行 役 員	岡 本 智
執 行 役 員	岡 崎 隆 宏
執 行 役 員	栗 末 英 行
執 行 役 員	上 山 真 喜
執 行 役 員	赤 塚 和 彦

【 株主メモ 】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末 3月31日 中間 9月30日
公 告 方 法	電子公告 当社ホームページにて掲載 (https://www.kyokuto.com/)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上 場 取 引 所	東京証券取引所 プライム市場

◆ 株式データ (2025年9月30日現在)

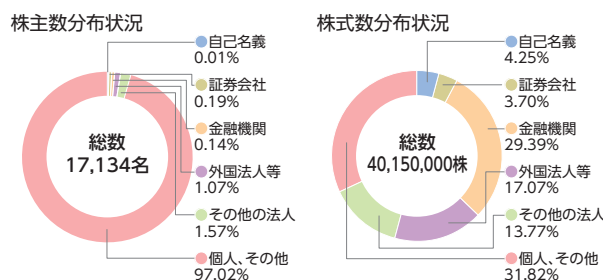
【 株式の状況 】

発行可能株式総数	170,950,672株
発行済株式総数	40,150,000株
株 主 数	17,134名
大 株 主	

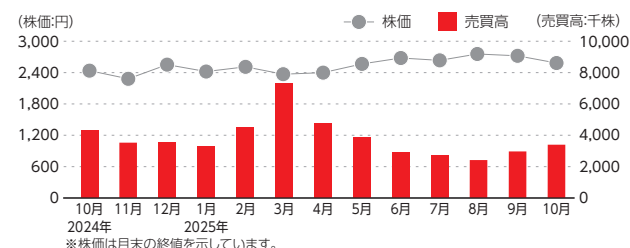
株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,025	10.47
極東開発共栄会	1,617	4.21
株式会社三井住友銀行	1,600	4.16
株式会社日本カストディ銀行 (りそな銀行再信託分・株式会社みなと銀行退職給付信託口)	1,498	3.90
極東開発従業員持株会	1,175	3.06
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,012	2.63
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	949	2.47
宮原 幾男	814	2.12
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・鹿島道路株式会社退職給付信託口)	660	1.72
東プレ株式会社	607	1.58

(注) 持株比率は、当社が保有する自己株式(1,706千株)を控除して計算しております。

【 株式分布状況 】



【 株価・売買高の推移 】



この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒541-8519 大阪府大阪市中央区淡路町二丁目5番11号
極東開発工業株式会社 法務広報部
URL:<https://www.kyokuto.com/>

Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co., Ltd.



社名・商品名・ロゴ等は各社の商標または登録商標です。



FTSE Blossom
Japan Index



健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

